産業界、地域社会と連携するデータ駆動型を活用したスマートファクトリーDXプラットフォーム

取組概要

【事業概要】

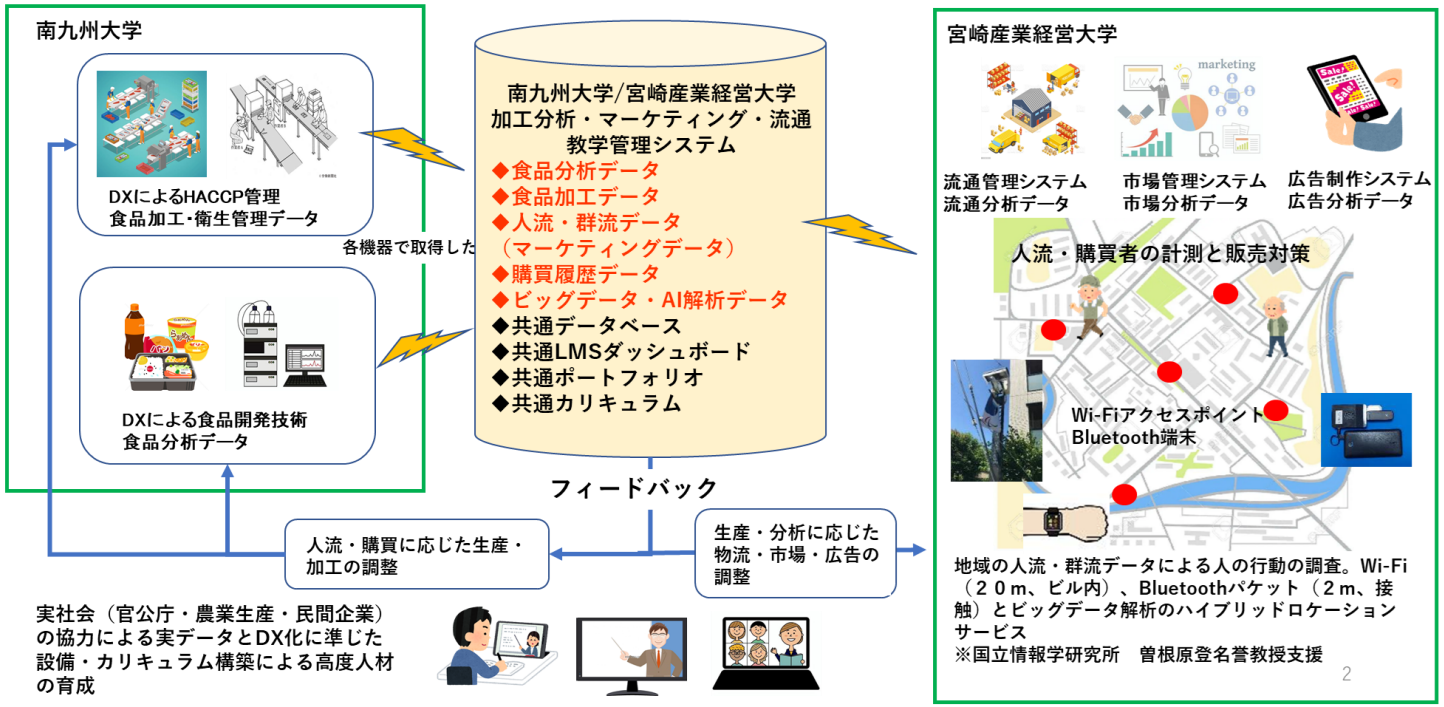
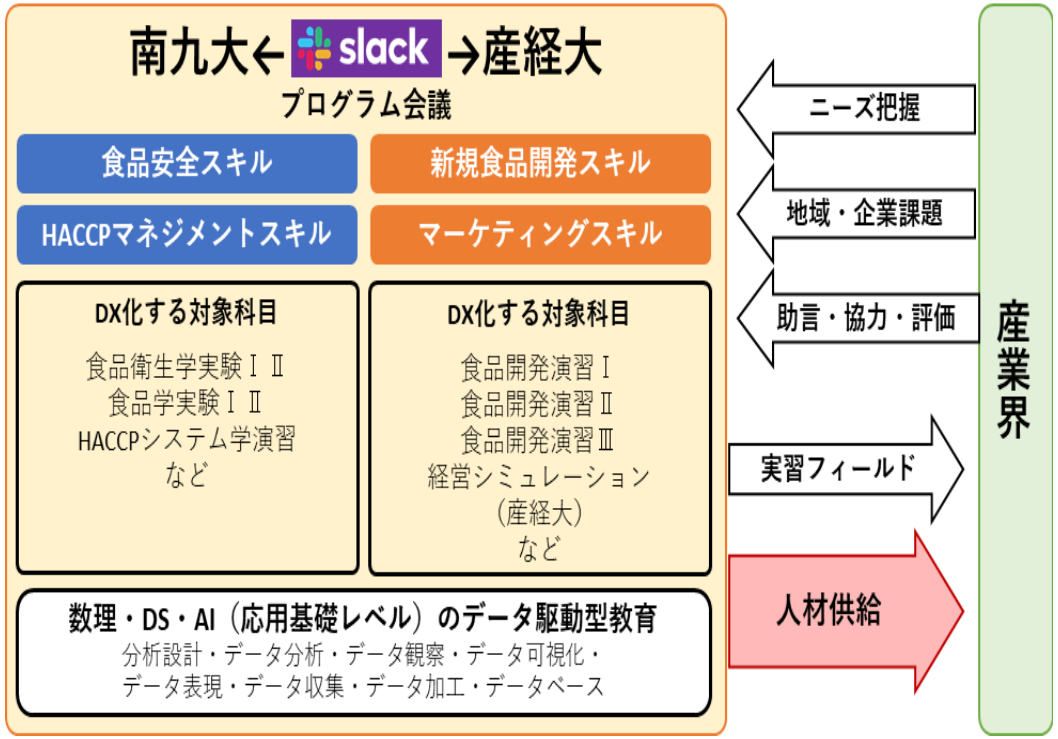
- 宮崎県は、宮崎県情報化推進計画（～みやざきDXプラン）で「データ駆動型」六次化農業の実現を産官学の連携で目指している。この実現には、Society5.0時代のデジタルリテラシーを備えた人材の育成が不可欠である。
- 本事業では、農業の六次産業化（１次：生産・２次：加工・３次：流通分野）の各分野で求められるDX人材の育成を目的とする。すなわち、数理・データサイエンス・AI（応用基礎レベル）のカリキュラムを南九州大学健康栄養学部食品開発科学科と宮崎産業経営大学経営学部とで共同開発し、その教育の場として宮崎県の産官学で構成する。

【人材育成目標】

- 国内外の消費者のニーズの更なる多様化、農業従事者の減少が進む中で食品生産者が的確に消費者のニーズに対して効率的、効果的に応えていく人材育成が重要である。
- 6次化スマートファクトリーDXでは生産者がデジタル技術を活用して、食品開発時の加工›分析による「価値」を提供すると同時に「経営」発展のためのマーケットの分析までを一貫しておこなえる6次化全体を把握できる人材を両大学が連携して育成する。

【事業概要イメージ】

DXプラットフォームには、各DXシステム（機器）やセンサーからのデータを構築し、両大学の教職員や学生が自由に閲覧、使用することができデータ解析やシミュレーションまでの実習を行う



【両大学の連携するDX教育体制】